

環境新聞・ユレット合同企画

# CO2と経営

4

## 環境と財務の「見える化」へ

「社会的負荷」削減に貢献

「年間1億トンのCO<sub>2</sub>削減抑制を実現したい」と語る日立製作所の高橋庸一環境本部長の胸に、緑色の「環境シンボルバッチ」が光る。一人ひとりが環境への高い意識を持つよう、従業員全員に配られたものだ。

日立グループが掲げている「環境ビジョン2025」では、①地球温暖化防止②資源の循環的な利用③水や土壌など生態系の保全の3つを柱とした戦略を掲げ、特にCO<sub>2</sub>排出量に重点を置き、年間1億トンの削減を目標としている。

### 電機業界編④

## 日立製作所

また、材料の調達から加工、生産、流通までの環境負荷を「直接環境負荷量」、商品の使用、回収、リサイクルの過程での負荷の削減を「社会的環境負荷削減量」と区分して、両者を等しくする「エミッションニュートラル」を2015年までに達成する目標を掲げた。それ以降は「社会的環境負荷」での削減量が「直接環境負荷」の排出量を大きく上回るビジョンを描く。

燃料転換図り  
重油使用をゼロに

そのためには、製品の効率化によって環境負荷を削減することが不可欠

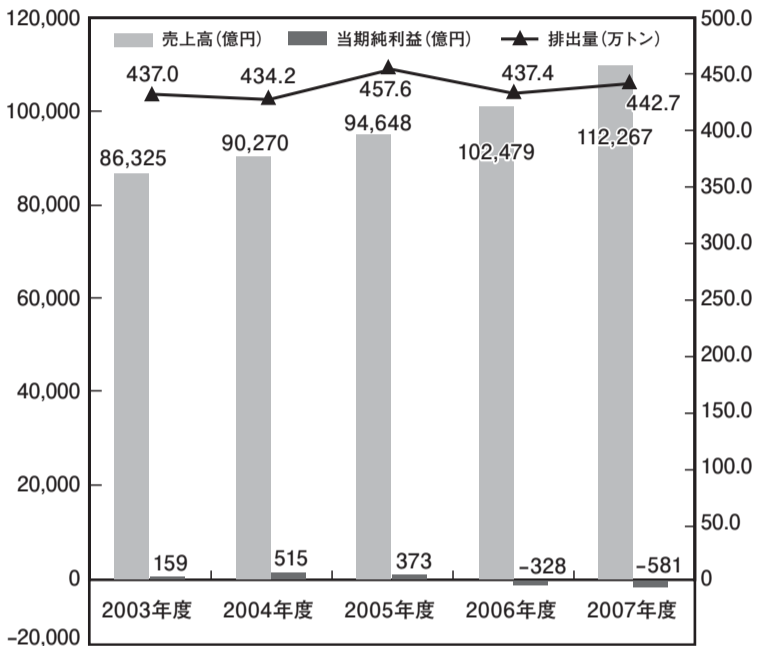


図1 日立製作所の財務状況と事業所のCO<sub>2</sub>排出量の推移 (日立製作所発行のCSR報告書、ユレット<<http://www.ullet.com/6501.html>>を基に作成)

# 循環インフラ整備急ぐ

だ。同社の家電商品の多くが家電業界の売り上げ実績において最上位を占

燃機は、モーターなどから発生する熱エネルギーを回収して衣類の乾燥に

断熱性能を約30%高めるなどの技術を搭載し、両製品が経済産業省の08年

天然ガスへ燃料転換を図ること、1990年度に約55万トンの重油起

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で

得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

度省エネ大賞を受賞している。一方、「直接環境負荷」を削減する取り組みとして、従来利用していた重油から環境負荷の少ない

再利用する新技術「ヒートリサイクル」を駆使し、電力消費量は従来機種比で80%の低減を実現した。また、同社の大容量冷蔵庫は、従来に比べ

高は年々増加し、07年度は約1兆2千億円となったが、06年度、07年度と2期連続で赤字となっている。ただし、ユレット(<http://www.ullet.com/6501.html>)

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

荷軽減に重点を置き、技術開発面で積極的な投資ができれば」と高橋氏は語る。

技術開発面でも、今後も積極的投資。同社の財務状況と事業所のCO<sub>2</sub>排出量の推移を見ると(図1)、売上

高は年々増加し、07年度は約1兆2千億円となったが、06年度、07年度と2期連続で赤字となっている。ただし、ユレット(<http://www.ullet.com/6501.html>)

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

荷軽減に重点を置き、技術開発面で積極的な投資ができれば」と高橋氏は語る。

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

荷軽減に重点を置き、技術開発面で積極的な投資ができれば」と高橋氏は語る。

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

荷軽減に重点を置き、技術開発面で積極的な投資ができれば」と高橋氏は語る。

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

省エネ設備など直接環境負荷を低減する設備投資は、03年度には約102億円だったが、右肩上がりに増え、07年度には約1.5倍の154億円

荷軽減に重点を置き、技術開発面で積極的な投資ができれば」と高橋氏は語る。

の日立製作所のキャッシュフロー計算書の円グラフ(図2)では、本業で得たお金の流れを示す営業活動によるキャッシュフローが右側に現れていることから、本業は順調であったことが読み取れる。しかし、昨年末から

機の影響が売上げを圧迫し、今年度の純損益は7千億円の赤字となる見通しだ。

一方、07年度のCO<sub>2</sub>排出量は03年度比で約1.3%増加したが、売上高の伸び(約30%)と比較すれば低い水準に抑えられていると言える。

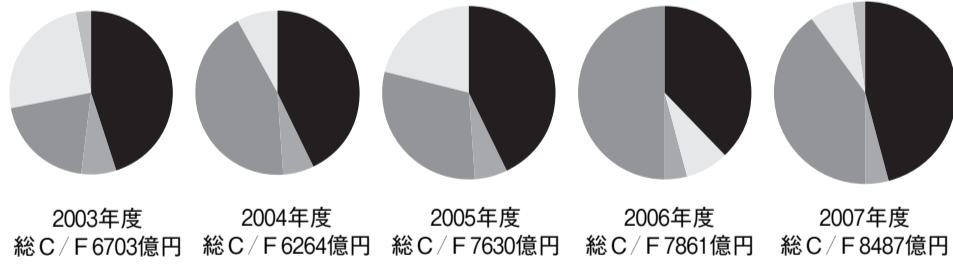


図2 日立製作所のキャッシュフロー計算書(C/F)の円グラフ。黒色(営業活動によるキャッシュフロー)が右にあり、割合が大きいのは本業が順調であることを示す。(ユレット<<http://www.ullet.com/6501.html>>を基に作成)